

# 令和3年度 学生による地域活性化プログラム 活動報告書



石川英樹ゼミナール(2)



石川英樹ゼミナール(1)



生島義英ゼミナール(2)



生島義英ゼミナール(1)



鯉江康正ゼミナール



権 五景ゼミナール



高島幸成ゼミナール



栗井英大ゼミナール



橋 雪氷ゼミナール



武本隆行ゼミナール



坂井一貴ゼミナール



広田秀樹ゼミナール

# 長岡大学 学生による地域活性化プログラム 各プロジェクト報告書

- 1** 栃尾地区活性化に向けたにぎわい創出事業：  
にぎわい創出プロジェクト～布の森 in 白昼堂堂～  
石川英樹ゼミナール(1)
- 2** クイズラリー開催、SNSによる栃尾PR  
石川英樹ゼミナール(2)
- 3** 十分杯を世界に知らせよう！—動画制作を通して—  
権 五景ゼミナール
- 4** きもの文化村構想の試み  
～十日町地域における新たな可能性～  
喬 雪氷ゼミナール
- 5** オープンファクトリーで長岡を活性化！  
栗井英大ゼミナール
- 6** グラスルーツグローバリゼーション  
—草の根・地域からの人類一体化の推進—  
広田秀樹ゼミナール
- 7** 小学生のプログラミング教育を通じた地域活性化活動  
高島幸成ゼミナール
- 8** 主体性を礎にした、ネットに頼らない情報の収集と課題の探索  
武本隆行ゼミナール
- 9** デジタル・情報技術を活用した地域の財・サービスの情報発信  
坂井一貴ゼミナール
- 10** コロナ禍における「まちの駅」の新たな交流・連携のあり方を考える  
鯉江康正ゼミナール
- 11** 長岡市摂田屋の魅力を高め、観光客を増やし、地域活性化を図る  
～イベントプロジェクト～  
生島義英ゼミナール(1)
- 12** 長岡市摂田屋の魅力を高め、観光客を増やし、地域活性化を図る  
～情報発信プロジェクト～  
生島義英ゼミナール(2)

## ごあいさつ



長岡大学 学長 村山光博

長岡大学の「学生による地域活性化プログラム」は、3、4年次の専門ゼミナールに所属する学生グループが、地域課題の解決や地域の魅力創出に向けた調査研究と具体的な活動を行うことにより、学生の職業人としての基礎的能力向上と地域活性化への貢献を同時に目指すプログラムです。本プログラムは2007(平成19)年度に導入してから、これまで十数年に渡り継続しながら発展してきた本学の特徴的な教育プログラムの一つであります。最近は、取り組みの中心でもある地域の現場における学生の諸活動を新聞やテレビ、ラジオ等のメディアでも取り上げていただく機会も増えてきました。また、これまで本プログラムの運営に多大なるご支援ご協力をいただいていた地域連携アドバイザーをはじめ地域の皆様から、これらの取り組みに対する激励のお言葉をいただいております。長きにわたりこの取り組みを続けて来られたのは、ひとえに地域の皆様の暖かいご支援とご指導の賜物と、心より感謝申し上げます。

「地域活性化とは」という問いに対する明確な答えを述べることはなかなか難しいのですが、本プログラムでは、答えのない様々な地域課題に対して、それら課題の原因をどのように捉え、どのように行動を起こして対応していくのかについて、学生が自ら体験することができます。卒業後には地域社会の一員となる学生たちが、将来、各職場や地域コミュニティの中にあるそれぞれの地域課題に取り組むことになる考えると、これらの体験は彼らにとって大変貴重なものとなることでしょう。

本プログラムでは、各ゼミナールで設定したテーマの下で学生グループが活動を進めていくことになりますが、時には一緒に活動する学生同士のちょっとしたすれ違いや地域の大人たちとの意見の食い違い等も起きることがあります。このような体験も学生がさらに一歩、人として成長するためのきっかけとなります。各グループで決めたテーマをまとめ上げるために、どのように他者と協力しながら取り組みを進めていくべきなのか、このグループの中での私の役割は何か、などを考えながら活動を行っていくことで、グループで活動することの難しさだけでなく、グループで目標に向かって何かをやり遂げることの充実感や達成感を味わうことができます。

長岡大学の「学生による地域活性化プログラム」では、学生が地域に飛び込んで地域の皆様と一緒に汗をかき、楽しみ、そして考える中から、目先の地域貢献活動だけでなく、将来にわたって地域の活性化を担っていく事のできる人材の育成を目指しております。本学の建学の精神は、「幅広い職業人としての人づくりと実学実践教育の推進」と「地域社会に貢献し得る人材の育成」です。本プログラムは、まさにこの精神を実現するための中核となる教育プログラムであると言えます。

本活動報告書は、各取組テーマの調査研究活動の概要とその成果について学生が執筆した報告書を集めて一冊にまとめたものです。ぜひご一読いただければ幸いです。

なお、本プログラムは「NaDeC 構想推進コンソーシアム産学協創ワーキング」から補助をいただいたことを申し添えます。

2022年3月

学生による地域活性化プログラム  
令和3年度 活動報告書

第 I 部

# 学生による地域活性化プログラム 令和3年度 活動報告書 第I部

## 目 次

第1章 学生による地域活性化プログラムの概要	I-1
1.1 プログラムの位置づけ	I-1
1.2 プログラムの概要	I-1
第2章 令和3年度取組の経過	I-4
2.1 本年度取組の経過	I-4
2.2 令和3年度の学生による地域活性化プログラム取組ゼミ	I-5
2.3 令和3年度の推進体制	I-6
第3章 本取組における学生教育の評価	I-7
3.1 「学生による地域活性化プログラム」による学生の社会人基礎力の評価	I-8
3.2 ビジネス展開能力の評価	I-11
3.3 参加学生の地域理解度の評価	I-14
第4章 取組結果のまとめ	I-16
4.1 今後の課題	I-16
4.2 取組結果の概要	I-17
参考資料	
1 令和3年度学生による地域活性化プログラム成果発表会（次第）	I-29
2 社会人基礎力診断シート（学生用）	I-30
3 社会人基礎力診断シート（教員用）	I-31
4 令和3年度学生による地域活性化プログラム成果発表会【意見シート】	I-32
5 令和3年度「学生による地域活性化プログラム」に関するアンケート調査	I-33

# 第1章 学生による地域活性化プログラムの概要

## 1.1 プログラムの位置づけ

「学生による地域活性化プログラム」は、「平成19年度採択文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代G P）学生による地域活性化提案プログラム－政策対応型専門人材の育成－（平成19年度～21年度）」（略して、地域活性化G P）を、継続的に行う取組である。当初の地域活性化G Pの「提案」とどまらず、現在の「学生による地域活性化プログラム」は、具体的な行動を学生が行うことによって、学生の社会人基礎力の伸長を目指すものとして発展し、本学の最重要教育プロジェクトの一つとなっている。

当初の地域活性化G Pは、長岡市の総合計画を題材に地域活性化提案を行うものであったが、発展した「学生による地域活性化プログラム」は、地域コミュニティの多様な課題を対象とした取組となっている。

## 1.2 プログラムの概要

### (1) プログラムの内容

長岡市は三度にわたって11市町村で合併したが、新市として発展する上で様々な地域課題の解決に迫られてきた。人口減少問題など、地域の諸課題はますます深刻化、複雑化し、より独自の方向性での検討が期待されている。

長岡大学の「学生による地域活性化プログラム」は、学生のグループが長岡地域や新潟県の課題を対象に、実地に調査研究を行い、地域活性化方策の提案・地域活性化の実践を行う。これによって、学生の社会人基礎力、企画・提案力の開発と地域活性化への意識の向上を、同時に実現することを目的とする。

本プログラムの内容は、①問題解決型教育＝体験・参加型教育の実践として、②長岡地域および新潟県内、またより一般的に地域の課題（環境、福祉、市民生活、産業等）をゼミナール（3年次、4年次）のテーマとしてとりあげ、③ゼミナールの学生グループがテーマごとに設けるアドバイザー（市担当者、関係団体の職員等）との緊密な連携と専門教員の指導の下に、④専門知識とスキルを応用してフィールド調査等の作業を行い、⑤地域活性化に貢献するとともに、その活動を広報し地域社会にフィードバックする。

## (2) プログラムの趣旨・目的

長岡大学は地域の産業界のニーズに対応した「幅広い職業人」の育成を第一の使命としている。長岡大学の教育の基本は、社会人基礎力とビジネス展開能力（企画力、提案力）の育成、ビジネスの現場に直結した専門的な知識とスキルの習得にある。

本プログラムの趣旨は、長岡大学の教育の基本方針に沿って、産業界のニーズだけでなく、まちづくりや生活環境の改善など、地域社会の広範なニーズに貢献できる人材を育成することにある。地域社会が必要とする人材は、自分で判断し自分から果敢に行動できる実践力のある人材である。本プログラムは、学生をこのような人材に育てあげることが目的としている。

## (3) 学生教育の目標、養成する人材像

本学の基本理念に対応して、長岡大学改革宣言（平成16年10月発表）において、本学の教育の目標を次のように掲げた。

地域社会、地域の企業と連携し、地域の産業界のニーズに直結した長岡大学独自の「ビジネス能力開発プログラム」を展開し、ビジネスを発展させるための企画を立て、提案し、実行させる能力と人間力のある人材を創造する。

さらに、学生に対して「毎日の学生生活で充実感を、レベルアップを確認して達成感を、卒業のときに4年間を振り返って満足感を」実感してもらうことを約束している。

本プログラムは、上記本学の教育目標と学生に対するコミットメントを達成することと、本学の基本理念を具体的に実践することを目指した教育プログラムの一環である。

本プログラムは、産業界ばかりでなく、市民活動やNPO等の非営利的な活動も含めて、地域社会と連携し、地域の活性化に貢献できる実践力のある人材の育成を目指すものである。

## (4) 設定する学生教育の目標と養成する人材像のニーズ

本取組における学生教育の目標は、

- ①社会人基礎力(アクション力・シンキング力・チームワーク力)の向上
- ②ビジネス展開能力（企画力・提案力・実行力）の向上
- ③専門的技法に関するスキルの向上

である。

専門的技法として学習するものは、情報・データ収集技法（情報検索、インターネット活用）、統計分析技法（統計の読み方、表計算ソフトの応用）、社会調査技法（アンケート、インタビュー）、レポート作成法、プレゼンテーション技法などである。

上記の能力と技法を身につけ、実際に地域の社会的問題に関わった学生は、地域社会が必要とする、自分で判断して行動できる実践力のある人材として、大いに期

待されると考えている。

#### (5) 目標を達成するための教育プログラム

本プログラムは、3、4年次のゼミナールにおける問題・課題解決型教育（Problem-based Learning・Project-based Learning：PBL）＝体験・参加型教育の実践により、学生の企画・提案力の向上を図ろうとするものである。プログラムは大きく、

- ①実課題の設定（地域社会が実際に解決したいと考えている問題を理解した上で、取り組むべき実課題の設定を行う）
- ②参考になる情報やデータの収集（実課題に関係する調査報告、統計データ、論評、過去の経緯等を収集し要点を整理する）
- ③フィールド調査の実施（アンケート調査やヒアリング調査、市民活動への参加を通じて、市民や産業界が真に求める施策や地域が活性化するための方策を検討し実際に活動する）
- ④報告書の作成と発表（調査検討を通じて得られた知見をもとに報告書の作成を行うとともに、行政当局、市民団体、企業等の関係者、市民に対して活動報告を行う）

の4つのステップで構成される。また、課題の選択、活動の内容等によって具体的な方法は様々なものになる。





## 第2章 令和3年度取組の経過

### 2.1 本年度取組の経過

令和3年度の「学生による地域活性化プログラム」の主な実施経過は次のとおりである。

＜令和3年度取組の経過＞

日付	内容
4月27日（火）	令和3年度第1回地域活性化プログラム運営部会開催
6月1日（火）	令和3年度第2回地域活性化プログラム運営部会開催
6月15日（火）	地域活性化プログラムの活動紹介パネルを展示（玄関エントランス、大学Webページ）
6月16日（水）	令和3年度第1回地域活性化プログラム推進協議会開催
6月29日（火）	令和3年度第3回地域活性化プログラム運営部会開催
7月27日（火）	令和3年度第4回地域活性化プログラム運営部会開催
8月31日（火）	令和3年度第5回地域活性化プログラム運営部会開催
9月28日（火）	生島ゼミ：中間レビュー
10月26日（火）	喬ゼミ：中間レビュー
10月5日（火）	令和3年度第6回地域活性化プログラム運営部会開催
11月2日（火）	令和3年度第7回地域活性化プログラム運営部会開催
11月2日（火）	坂井ゼミ：中間レビュー
11月9日（火）	広田ゼミ：中間レビュー
11月9日（火）	石川ゼミ：中間レビュー
11月15日（月）	鯉江ゼミ：中間レビュー
11月16日（火）	栗井ゼミ：中間レビュー
11月16日（火）	権ゼミ：中間レビュー
11月26日（金）	高島ゼミ：中間レビュー
11月30日（火）	令和3年度第8回地域活性化プログラム運営部会開催
12月4日（土）	令和3年度地域活性化プログラム成果発表会開催 於：ホテルニューオータニ長岡 NCホール
12月15日（水）	令和3年度第2回地域活性化プログラム推進協議会開催
1月11日（火）	令和3年度第9回地域活性化プログラム運営部会開催
2月1日（火）	令和3年度第10回地域活性化プログラム運営部会開催
3月16日（水）	令和3年度地域活性化プログラム活動報告書発行 （合冊並びに各取組12分冊）

## 2.2 令和3年度の学生による地域活性化プログラム取組ゼミ

本年度は10ゼミ12取組が実施された。各取組の活動報告については「第4章 取組結果のまとめ」を、学生が作成した成果報告については「第Ⅱ部 学生による活動報告」を参照。

<取組ゼミとテーマ>

	取組テーマ	ゼミ名
1	栃尾地区活性化に向けたにぎわい創出事業	石川英樹ゼミ(1)
2	栃尾地区活性化に向けたPR事業	石川英樹ゼミ(2)
3	十分杯を世界に知らせよう!	権五景ゼミ
4	きもの文化村構想の試み～十日町地域における新たな可能性～	喬雪氷ゼミ
5	オープンファクトリーで長岡を活性化!	栗井英大ゼミ
6	グラスルーツグローバリゼーション 一草の根・地域からの人類一体化の推進一	広田秀樹ゼミ
7	小学生のプログラミング教育を通じた地域活性化活動	高島幸成ゼミ
8	主体性を礎にした、ネットに頼らない情報の収集と課題の探索	武本隆行ゼミ
9	デジタル・情報技術を活用した地域の財・サービスの情報発信	坂井一貴ゼミ
10	コロナ禍における「まちの駅」の新たな交流・連携のあり方を考える	鯉江康正ゼミ
11	長岡市撰田屋の魅力を高め、観光客を増やし、地域活性化を図る イベントプロジェクト	生島義英ゼミ(1)
12	長岡市撰田屋の魅力を高め、観光客を増やし、地域活性化を図る 情報発信プロジェクト	生島義英ゼミ(2)

(注) 成果発表会での発表順および「第Ⅱ部 学生による活動報告」の掲載順



## 2.3 令和3年度の推進体制

令和3年度の「学生による地域活性化プログラム」の推進体制は、次のとおりである。

<総合アドバイザー>

(敬称略)

所 属	職 名	氏 名
株式会社フーゲツ	代表取締役社長	千葉 智
長岡市地方創生推進部政策企画課	課長	新沢 達史

<地域連携アドバイザー>

(敬称略)

所 属	職 名	氏 名
グリーン・フィロソフィー	代表	大出 恭子
フェアトレードショップ ら・なぶう	オーナー	若井 由佳子
まちの駅ネットワークみつけ	代表	久住 幸靖
NPO 法人市民協働ネットワーク長岡	コーディネーター	太田 道子
オオタケコウスケデザイン事務所オフィス	代表	大竹 幸輔
長岡市栃尾支所地域振興課	地域おこし協力隊員	加治 聖哉
株式会社長谷川陶器	代表取締役	長谷川 真
魚沼市役所 防災安全課	主事	中澤 司
株式会社アルモ	代表取締役社長	柴木 樹
長岡市 商工部 産業支援課	工業振興担当課長補佐	酒井 億
長岡市 観光・交流部 観光企画課	課長補佐	小林 隆
ミライ発酵本舗株式会社	統括マネージャー	平沢 政明
FM ながおか 長岡移動電話システム株式会社	常務取締役放送局長	佐野 護
長岡商工会議所営業サービスグループ	主幹	瀧澤 学
株式会社きものブレイン	代表取締役社長	岡元 松男
富士工営株式会社	代表取締役会長	池津 忠
長岡市 教育委員会 学校教育課	企画推進係	伊藤 裕希

<学内推進委員>

ゼミ担当教員	教 授	広田 秀樹
ゼミ担当教員	教 授	鯉江 康正
ゼミ担当教員	教 授	石川 英樹
ゼミ担当教員	教 授	権 五景
ゼミ担当教員	教 授	栗井 英大
ゼミ担当教員	准教授	生島 義英
ゼミ担当教員	准教授	武本 隆行
ゼミ担当教員	准教授	坂井 一貴
ゼミ担当教員	専任講師	喬 雪氷
ゼミ担当教員	専任講師	高島 幸成

### 第3章 本取組における学生教育の評価

地域活性化プログラムにおける学生教育の目標は、

- ① 社会人基礎力（アクション力・シンキング力・チームワーク力）の向上
- ② ビジネス展開能力（企画力・提案力・実行力）の向上
- ③ 専門的技法に関するスキルの向上

である。

このうち最も重要な目標は、社会人基礎力の向上にある。社会人基礎力は、多様な個性をもった多数の人間で構成される「現実の社会」で、力強く生き抜くために必要な基本的能力である。

これから現実の社会で働き、生き抜いて行く必要がある若者が身に付けなければならない能力といえる。長岡大学は、学生の社会人基礎力を最大限伸ばさせることを重視し、あらゆる機会を通じて、学生の社会人基礎力向上に挑戦している。学生による地域活性化プログラムは、本学の社会人基礎力育成教育の支柱である。

社会人基礎力は、大別して、アクション力・シンキング力・チームワーク力で成り立つ。そして、アクション力・シンキング力・チームワーク力は、以下のようなそれぞれの「サブレベル能力」で構成される。

アクション力は、「主体性・働きかけ力・実行力」の3つの「サブレベル能力」で成り立つ。

チームワーク力は、「発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力」の6つの「サブレベル能力」で構成される。

シンキング力は、「課題発見力・計画力・創造力」の3つで成り立つ。

社会人基礎力はこのような「12のサブレベル能力」で構成され、「12のサブレベル能力」を伸ばすことが、「社会人基礎力全体」を伸ばすことにつながる。

長岡大学は「参考資料2」のような、「12のサブレベル能力とは何か」、「12のサブカテゴリーで、自分が今、どの程度の段階にあって、どのサブレベル能力を伸ばして行くべきか」を明確にした、長岡大学独自の「社会人基礎力評価シート」を開発し活用している。

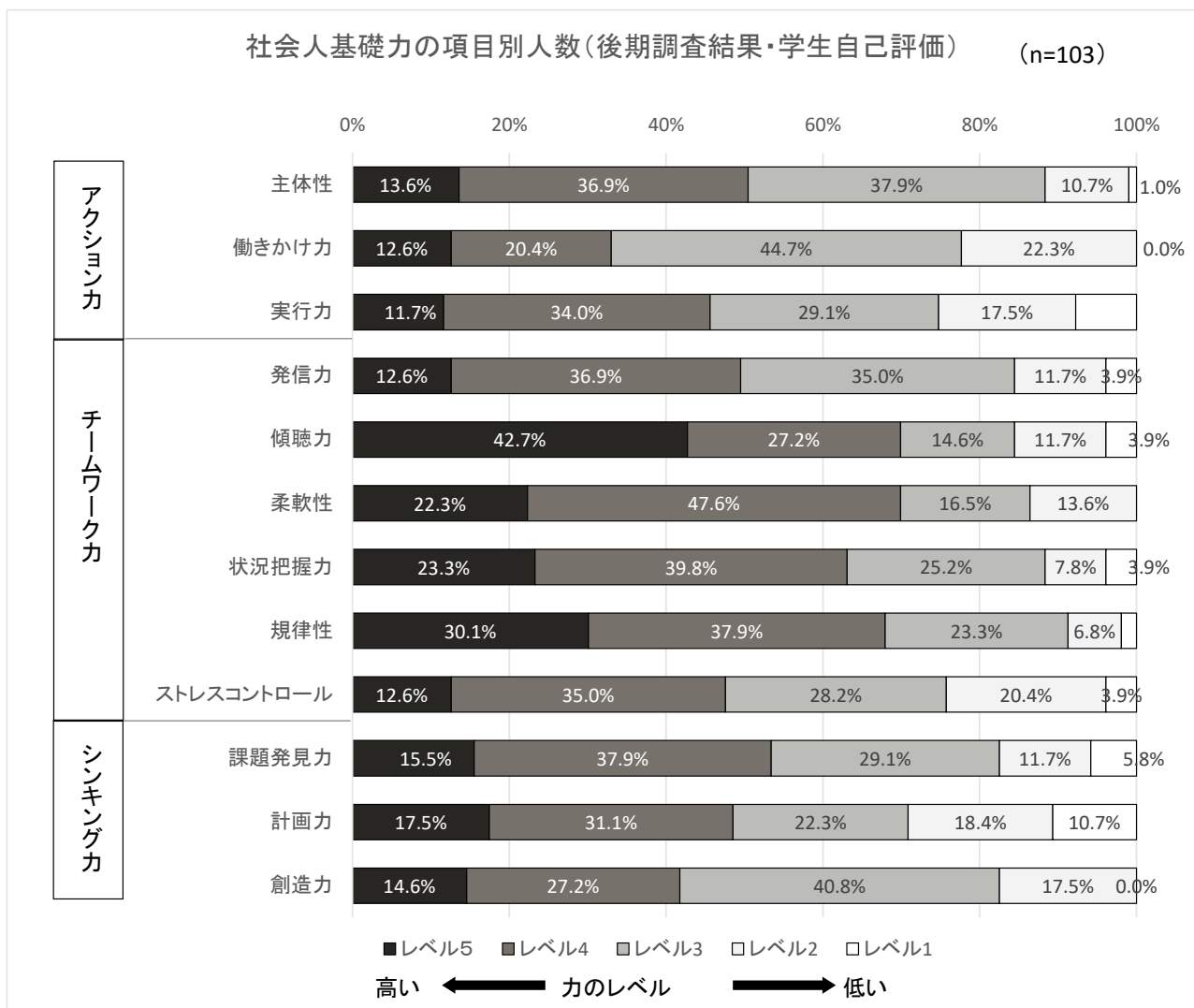
この「社会人基礎力評価シート」は、「学生がイメージしやすいわかりやすい文章」でできている。このシートの活用によって、学生は「社会人基礎力の12のサブレベル能力」自体を、よく理解することができる。そして、今自分が、各サブレベル能力カテゴリーで、5段階中のどの段階にあって、今後どの能力を伸ばしていかなければならないか、ということを確認に認識することができる。

このシートを活用した調査は、地域活性化プログラムの活動が始まる前期と、プログラムでの活動を経験した最終段階の後期の2回実施する。

### 3.1 「学生による地域活性化プログラム」による学生の社会人基礎力の評価

#### (1) 学生の自己評価

今年度の学生による地域活性化プログラムへの参加学生は、139 人であった。調査に回答した学生 103 名の中で、社会人基礎力の「前期調査の総得点」と「後期調査の総得点」を比較して、伸長した学生は 63 人（61.0%）であった。概ね、地域活性化プログラムに参加した学生の 60%が、社会人基礎力の何らかの領域で確実に能力を伸長していると実感していることがわかる。



社会人基礎力シートの「12のサブレベル能力」においては、5段階評価の「3」が平均的水準である。後期調査結果時点で、「3」以上の数値をつける学生が、概ね8割前後になっている。地域活性化プログラムに参加した学生の大半は、社会人基礎力「12のサブレベル能力」の多数の領域で、明らかに力をつけているといえる。

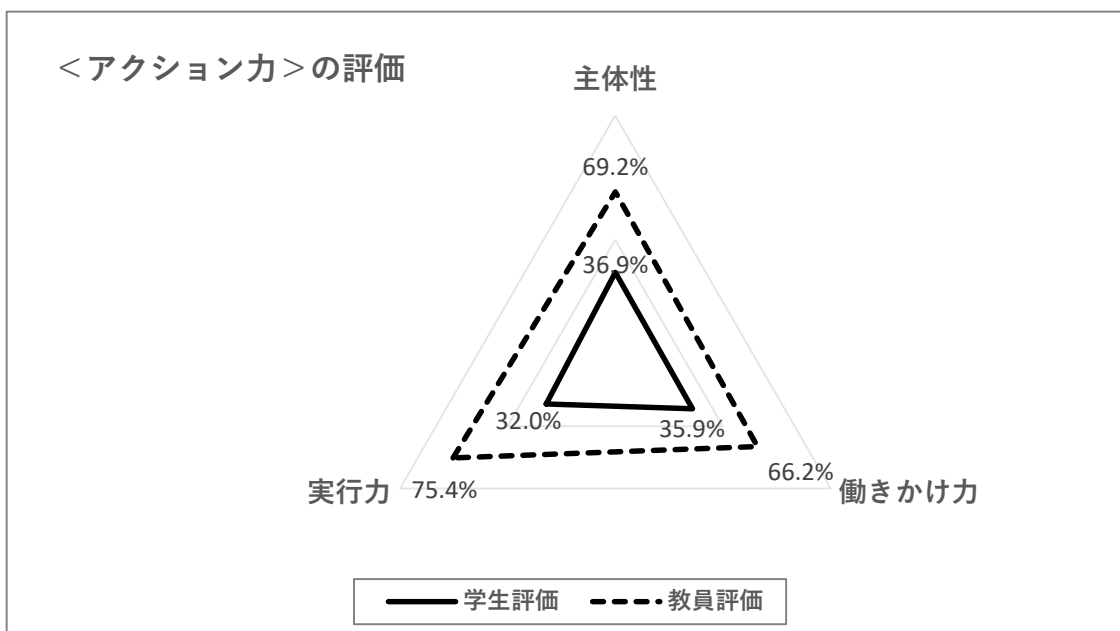
## (2) 3つの社会人基礎力の比較

社会人基礎力が伸びたかどうかについては、学生に「社会人基礎力診断シート（学生用）アンケート」（参考資料2）を前期始めと学年末に Web 方式で実施した。また、地域活性化プログラム運営部会の構成員であるゼミ担当教員には、「社会人基礎力診断シート（教員用）」（参考資料3）を学年末に実施した。学生は自己評価（有効回収数 103）であり、教員は各ゼミ学生についての評価である。

### ①アクション力

<アクション力>の評価（上昇した人の割合）

		学生評価	教員評価
主体性	進んで取り組む力	36.9%	69.2%
働きかけ力	他の人に働きかける力	35.9%	66.2%
実行力	取組みを確実に実行できる力	32.0%	75.4%

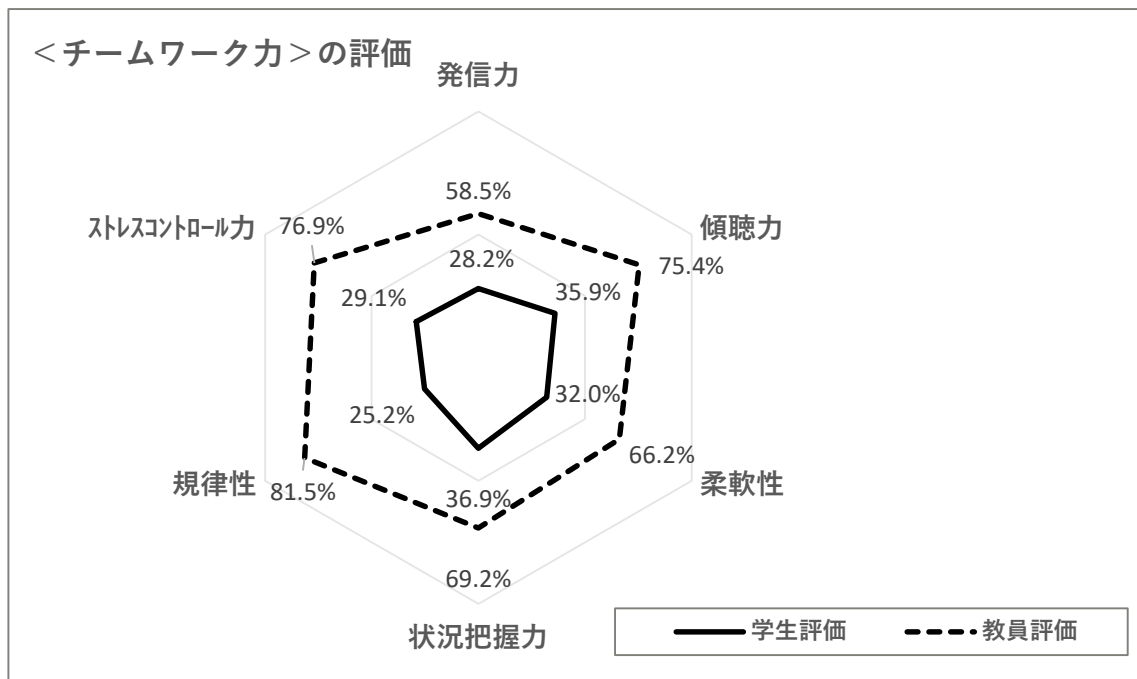


「アクション力」については、教員は7割前後の学生が伸びたと評価している。学生は3割ほどが伸びたと実感している。

### ②チームワーク力

<チームワーク力>の評価（上昇した人の割合）

		学生評価	教員評価
発信力	自分の意見を相手に伝える力	28.2%	58.5%
傾聴力	相手の意見を聴く力	35.9%	75.4%
柔軟性	意見の違いなどを理解する力	32.0%	66.2%
状況把握力	周囲の人や物事との関係をよく理解する力	36.9%	69.2%
規律性	ルールや約束を守る力	25.2%	81.5%
ストレスコントロール力	ストレスをうまく解消する力	29.1%	76.9%

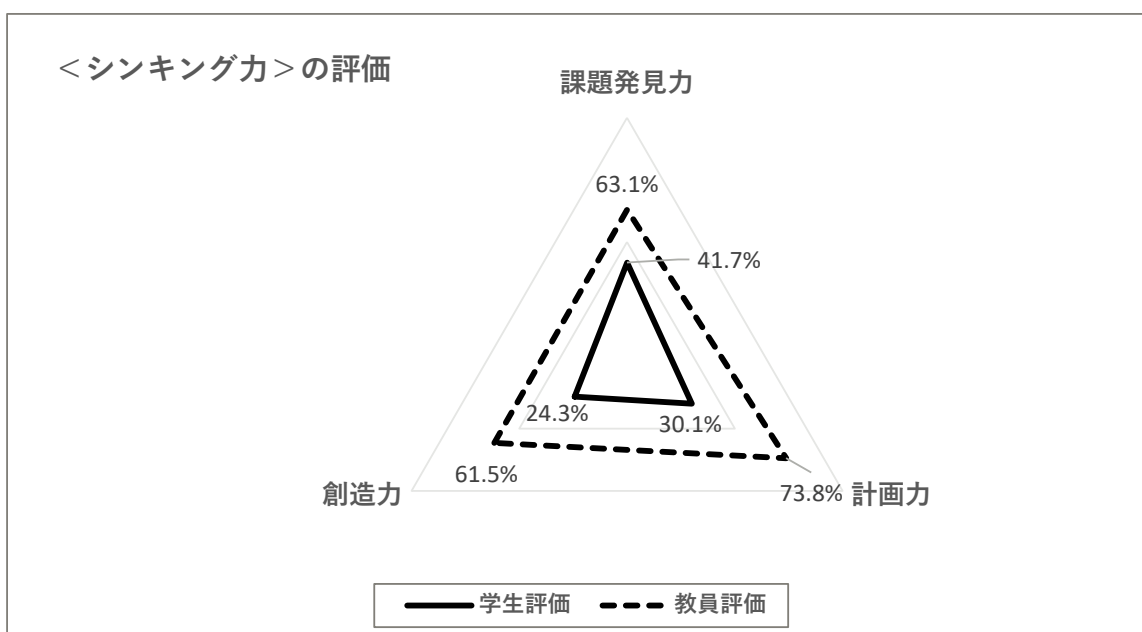


「チームワーク力」については、教員は概ね、6割～8割の学生が伸びたと評価している。学生は3割前後が伸びたと実感している。

③シンキング力

<シンキング力>の評価（上昇した人の割合）

		学生評価	教員評価
課題発見力	課題を明らかにする力	41.7%	63.1%
計画力	課題解決の準備をする力	30.1%	73.8%
創造力	新しいアイデアを出す力	24.3%	61.5%

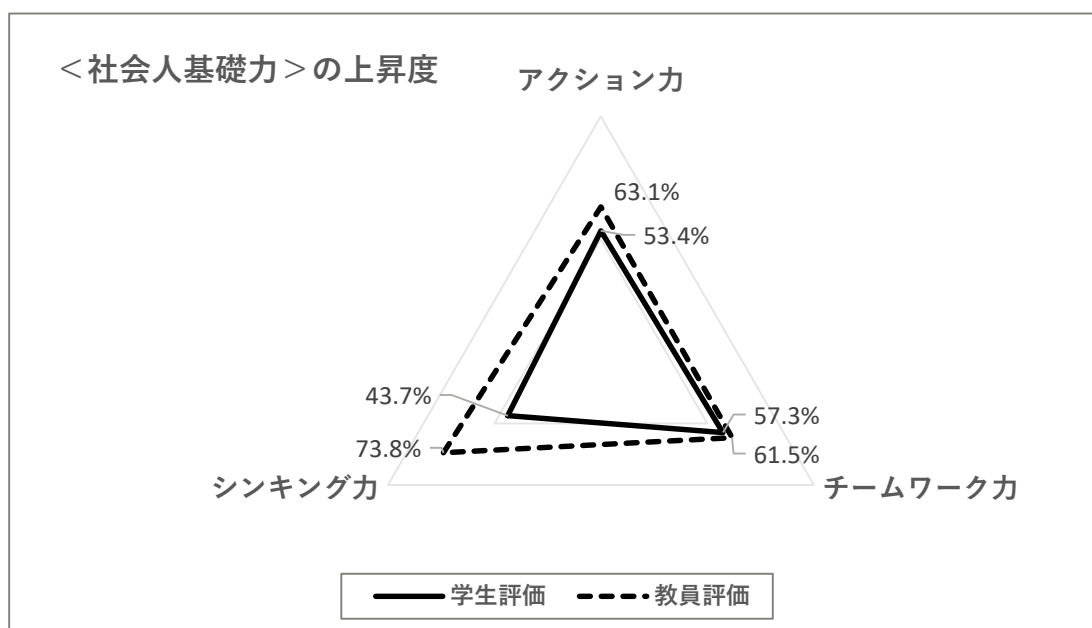


「シンキング力」に関しては、教員は6割から7割の学生が伸びたと評価している。学生は2割5分から4割が伸びたと実感している。

#### ④社会人基礎力の上昇度

＜社会人基礎力＞の上昇度

	学生評価	教員評価
アクション力	53.4%	63.1%
チームワーク力	57.3%	61.5%
シンキング力	43.7%	73.8%



「社会人基礎力の上昇度」については、教員は学生の「シンキング力」が一番伸びたと評価し、学生は「チームワーク力」が最も伸びたと実感している。

### 3.2 ビジネス展開能力の評価

ビジネス展開能力（企画、提案）については、成果発表会において、参加者（地域連携アドバイザー、本学学生、本学教職員）から「地域活性化プログラム成果発表会意見シート」（参考資料4）にて、取組の評価等をいただいた。今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、参加人数を制限しての開催となった（一般参加者なし）。意見シートは192名に対して159名回収できた。回収率は82.8%である。当日は12取組の発表がなされた。

#### (1) 取組テーマ（タイトル）と内容の合致

取組テーマ（タイトル）と内容の合致については、「合致していた」との回答が全体で91.8%であった。概ね評価されたのではないかと考えられる。しかし、今後活動を進めるなかで活動の範囲や方向性が変わっていく可能性もあることから、この点は引き続き担当教員が指導し



ていくことが望まれる。

Q1 取組テーマ（タイトル）と内容は合致していましたか。

		合致していた	あまり合致していない	合致していなかった	小計	無回答	合計
実数(人)	アドバイザー14人	136	22	0	158	10	168
	学生128人	1,332	93	9	1,434	102	1,536
	教職員17人	181	20	3	204	0	204
	合計159人	1,649	135	12	1,796	112	1,908
構成比(%)	アドバイザー14人	86.1	13.9	0.0	100.0		
	学生128人	92.9	6.5	0.6	100.0		
	教職員17人	88.7	9.8	1.5	100.0		
	合計159人	91.8	7.5	0.7	100.0		

(2) 取組は地域活性化に役立つ

各取組の地域活性化については、「役立つ」という回答は、全体で80.4%であった。しかし、アドバイザーは78.5%、教職員は64.7%と学生と比較するとやや低い結果となった。再度、大学内における方向性の確認、意識統一が必要ではないか。

Q2 この取組は地域活性化に役立つと思いますか。

		役立つ	どちらともいえない	役立たない	小計	無回答	合計
実数(人)	アドバイザー14人	124	34	0	158	10	168
	学生128人	1,185	217	29	1,431	105	1,536
	教職員17人	132	69	3	204	0	204
	合計159人	1,441	320	32	1,793	115	1,908
構成比(%)	アドバイザー14人	78.5	21.5	0.0	100.0		
	学生128人	82.8	15.2	2.0	100.0		
	教職員17人	64.7	33.8	1.5	100.0		
	合計159人	80.4	17.8	1.8	100.0		

(3) 取組の評価

取組の評価については、「高く評価できる」が57.7%であった。また、「評価できる」まで加えると93.6%で、昨年同様、それなりに取組が評価されていることがわかる。本学学生をみると両者の合計は94.6%である。今後もシンポジウム等への参加機会や地域との交流機会、学生間の交流機会を増やし、学生の洞察力や興味を高め取組のレベルを上げ、結果として学生の社会人基礎力、ビジネス展開能力を伸長させることが必要であると思われる。

Q3 学生の取組として評価できると思いますか。

		高く 評価できる	評価できる	やや 物足りない	あまり評価 できない	小計	無回答	合計
実数(人)	アドバイザー14人	67	78	13	0	158	10	168
	学生128人	909	448	67	10	1,434	102	1,536
	教職員17人	60	119	25	0	204	0	204
	合計159人	1,036	645	105	10	1,796	112	1,908
構成比(%)	アドバイザー14人	42.4	49.4	8.2	0.0	100.0		
	学生128人	63.4	31.2	4.7	0.7	100.0		
	教職員17人	29.4	58.3	12.3	0.0	100.0		
	合計159人	57.7	35.9	5.8	0.6	100.0		

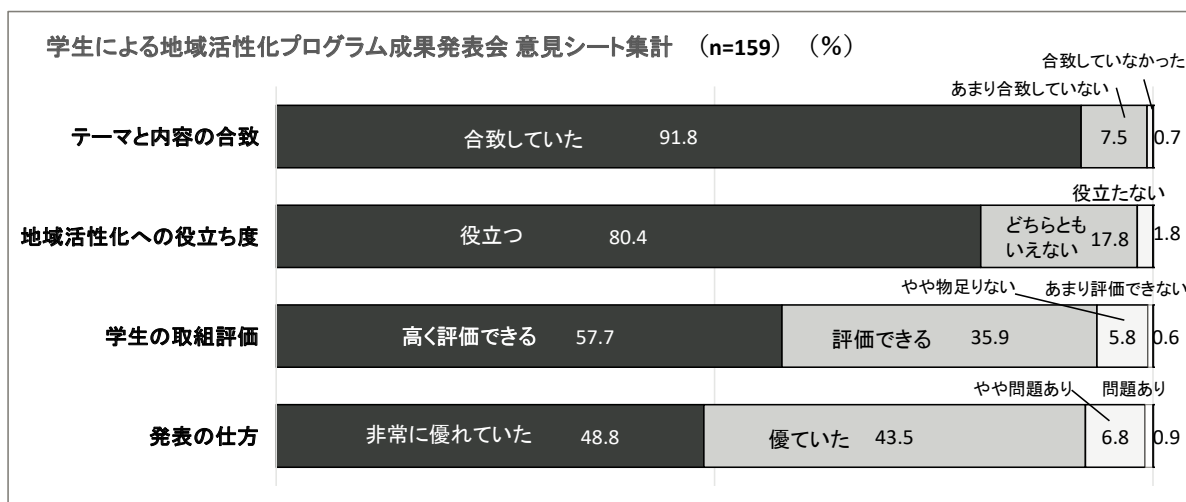
(4) 発表の仕方

発表については、「非常に優れていた」が48.8%、「優れていた」が43.5%で、合計で、9割ほどとなる。このプログラム自体は、長期の伝統を形成しているが、一方で「実際に発表する学生」はほぼ毎年変わる。つまり、壇上で一般市民も含めた多くの方々の前で発表することが、初めての経験という学生が大半となる。それでも、各ゼミの活動が年々成熟度を増し、先輩から後輩に受け継がれる発表スキルの蓄積が増し、レベルが年々高まっていると考える。

Q4 発表の仕方についてどう感じましたか。

		非常に 優れていた	優れていた	やや問題 あり	問題あり	小計	無回答	合計
実数(人)	アドバイザー14人	30	112	15	1	158	10	168
	学生128人	806	526	84	14	1,430	106	1,536
	教職員17人	38	142	23	1	204	0	204
	合計159人	874	780	122	16	1,792	116	1,908
構成比(%)	アドバイザー14人	19.0	70.9	9.5	0.6	100.0		
	学生128人	56.2	36.7	5.9	1.0	99.7		
	教職員17人	18.6	69.6	11.3	0.5	100.0		
	合計159人	48.8	43.5	6.8	0.9	100.0		

「地域活性化プログラム成果発表会意見シート」集計グラフ



### 3.3 参加学生の地域理解度の評価

本プログラムは成果指標として参加学生の地域への理解度向上を評価するため、地域活性化プログラムに関するアンケート（参考資料5）を実施した。

問1. 所属ゼミナールの活動（地域活性化プログラム取組）を行った後、地域への理解が高まりましたか。

回答項目	人数	参加学生全体の中でのシェア
高まった	115人	91.3%
どちらともいえない	10人	7.9%
高まっていない	1人	0.8%
合計	126人	100.0%

「地域への理解が高まった」と回答した学生が、91.3%であった。9割の学生が、自分が生きている地域について、あらためて新鮮な発見をし、可能性、潜在力を実感した。学生による地域活性化プログラムは、「地域理解教育」としての重要な機能があることがわかる。

問2. 地域活性化プログラムの取り組みは、地域の活性化に役立ったと思いますか。

回答項目	人数	参加学生全体の中でのシェア
役立った	108人	85.7%
どちらともいえない	17人	13.5%
役立っていない	1人	0.8%
合計	126人	100.0%

「地域の活性化に役立った」と回答した学生が、85.7%であった。8割以上の学生が、地域活性化プログラムが、多様な視点で、地域の創生、発展、そこに生きる人々の幸福に寄与する取り組みであると実感してくれたものと考えている。

いつの時代も、若者の内面には、他者の幸福への貢献、地域への貢献、時代開拓への貢献といった「純粋な使命感、正義感」がある。その崇高な思い、意志が、若

者特有の圧倒的な体力、行動力、創造力、冒険心、飛躍性と連動して、それが地域に展開されることが理想である。

問 3. 所属ゼミナールの活動（地域活性化プログラム取組）を行う前と行った後で、あなた自身の社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）は上昇したと思いますか。

回答項目	人数	参加学生全体の中でのシェア
上昇した	115 人	91.3%
どちらともいえない	11 人	8.7%
上昇していない	0 人	0.0%
無回答	0 人	0.0%
	126 人	100.0%

「社会人基礎力は上昇した」と回答した学生は、91.3%であった。「どちらともいえない」と回答した学生は、8.7%。「上昇していない」と回答した学生はいなかった。

90%以上の学生が社会人基礎力の伸長を実感しているのは、素晴らしいことである。一方で1割未満であるが、少数の学生は社会人基礎力の明確な伸長を実感していない。近年、プログラムに参加する学生数が多く、プログラム進行上、「中心となって活躍する学生のグループ」と「何らかの理由であまり活躍しない、ないしできない学生のグループ」に分離する実情もある。今後は一人残らず参加学生全員が、自分の使命を実感し全員がお互いを励ましあいプログラムを進める、「完全全員参加型」、All for One, One for All という伝統をつくって行くことが重要である。

問 4. 所属ゼミナールの活動（地域活性化プログラム取組）を行う前と行った後で、あなた以外の他のメンバーを総合的に見て社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）は上昇したと思いますか。

回答項目	人数	参加学生全体の中でのシェア
ほぼ全員が上昇した	94 人	74.6%
上昇した学生と上昇していない学生が半々位	31 人	24.6%
上昇していない学生が多い	0 人	0.0%
無回答	1 人	0.8%
	126 人	100.0%

「ほぼ全員が上昇した」と回答した学生が、74.6%である。一方、「上昇した学生と上昇していない学生が半々位」が、24.6%であった。「プログラムの取り組みの勢いに乗り遅れ、成長しきれない学生」の存在があるものとする。だからこそ「完全全員参加型」、All for One, One for All のプログラム運営を、推進することが今後の目標になってくる。

## 第4章 取組結果のまとめ

令和3年度長岡大学「学生による地域活性化プログラム」のまとめとして、今後の課題について整理しておきたい。なお、各取組の詳細な内容は「第Ⅱ部 学生による活動報告」を参照。

### 4.1 今後の課題

長岡大学の「学生による地域活性化プログラム」は長きに渡って、学生の社会人基礎力を最大限伸ばさせる本学の教育プログラムの支柱になってきた。

近年のコロナパンデミックの深刻な状況下でも、本学の活力に満ちた勇気ある多くの学生は行動制限等の壁がある中ですら、「学生による地域活性化プログラム」を力強く推進している。

一般的に人口構造の激変を背景に、日本の地域は異次元の困難な段階にある。地域での「内発的協力」こそが、持続的に地域社会を支え安定させるために最も重要となっている。地域の「内発的協力」を高めるため、地域の中で高い社会人基礎力をもった若い人材が育成され地域で活躍して行く潮流を、創造することが最も大切である。

若き人材が身に付けるべき能力は複数ある。幅広い豊かな教養、高度な専門知識、高度な思考力といった、伝統的に大学が伝授してきたアカデミックな要素も必要であり、長岡大学はそれらを徹底して高める教育も十分提供している。学生の知的水準は飛躍的に伸ばし高くなっている。

しかし、現代の若者は、幼少の頃から、スマートフォン、ゲーム機器といった、「一人で充実できる環境」の中で育ち、「対人力・対話力・組織人としての能力」といった、「激動・激変する社会・組織」の中で、たくましく野性的に生き抜くための基本的能力が、十分つかない状況下にあるという見方もできる。20年、30年前にそれらの能力を、大半の若者が成長過程で自然に身に付けていた時代と現代は全く違う。

現代の若者も生き抜くため、多様な個性をもった人間群の嵐の中で働き、所得を得ていかなければならない。そのため、従来の大学が提供していたアカデミックな学修のみでは、不十分である。この一点を、最も早く認識し「学生による地域活性化プログラム」という、学生に地域での「体当たりの体験学習」を提供する教育手法を導入し軌道に乗せたのが、長岡大学である。

「学生による地域活性化プログラム」に参加した多くの学生は、現実の地域に生きる人間の中に飛び込み、悪戦苦闘する中で、社会人基礎力を確実に身につけている。予想外の事態が何度もおき、面くらい驚き、それでも立ち上がり前進を続け、見事にプログラムを成し遂げ、その結果として、社会人基礎力を飛躍的に伸ばした学生の姿を本年度も多くみた。社会人基礎力を鍛えるため、絶大な体験学習の場を踏めるのが、「学生による地域活性化プログラム」である。

今後も体当たりで地域に飛び込み、チャレンジし、現実到大成長する学生の成長ドラマを着実に増やして行きたい。

## 4.2 取組結果の概要

以下、本年度の取組結果の概要をパネルで紹介して、第I部のまとめとしたい。

石川英樹  
ゼミナール

### 栃尾地区活性化に向けたにぎわい創出事業にぎわい創出プロジェクト～布の森 in 白昼堂堂～



【参加学生】 10名(4年生5名、3年生5名)  
4年 金子 響 小泉日和 永田藍美 山本紘也 米山和成  
3年 磯部直樹 上村月乃 野澤侑我 星野宇宙 山本まりあ

【アドバイザー】  
オオタケコウスケ デザイン事務所オフィス 代表 大竹幸輔 氏  
長岡市栃尾支所地域振興課 地域おこし協力隊員 加治聖哉 氏

## 目標： 栃尾地区の交流人口の増加による活性化

### 【取組】「杜々の森×錦鯉×栃尾繊維」融合のインスタレーション 『布の森』の展示@白昼堂堂

- ・栃尾の貴重な自然資産「**杜々の森名水公園**」の危機(行政の管理体制の縮小・消滅)  
⇒インスタレーション(空間芸術)のテーマにとりあげてPR。
- ・イベントで域内外の地域資源のPR……**栃尾繊維**、**二十村郷の錦鯉**
- ・魅力あるイベント開催で「**白昼堂堂**」の拠点性向上、地域ブランディングの促進  
⇒雁木通りを中心に栃尾のにぎわいの創出へ



「布の森」開催  
(2021/10/23～31)



### 【地域との連携】

- ・ALL栃尾の祭典「**栃尾縁日**」での共同開催  
……栃尾の様々な地域活動団体と連携強化

### 【地域資源の長期的PRに向けて】

- ・「布の森」終了後に、錦鯉・栃尾繊維を希望者に無償譲渡。市民に長く接してもらう

※来場者数 1,152人

石川英樹  
ゼミナール

## クイズラリー開催、SNSによる栃尾PR



【参加学生】 8名(4年生5名、3年生3名)

4年 小林真由香 松永優芽 阿部紘輝 王浩田 竹内葵

3年 今井諒 鈴木颯太 諸橋涼

【アドバイザー】

オオタケコウスケ デザイン事務所オフィス 代表 大竹幸輔 氏

長岡市栃尾支所地域振興課 地域おこし協力隊員 加治聖哉 氏

### 目標： 栃尾地区の交流人口の増加による活性化

(取組 1) ウェブサイト・SNSで栃尾PRのネットワーク構築

(取組 2) 雁木通りでのクイズラリー開催

・来年度以降、コロナ収束後に観光開発の取り組みにおける広報など**情報発信の基盤構築**

- ・雁木通りまちあるき&栃尾のクイズ…**栃尾の体験型PR**
- ・SNS (インスタグラム) の**フォロワー増加**の場

フォロワー200人

- ・「とちお歩く旅のまちづくり委員会」と共催：  
**「谷内通りで謎解きウォーク～雁木あいぼ～」開催**  
参加者 444人



(「栃尾縁日」打ち合わせ)

ALL 栃尾の祭典**「栃尾縁日」**で  
共同開催、栃尾の地域活動の諸  
団体と協働  
……今後のゼミ活動基盤強化

今後に向けて、、、

**栃尾地区の地域活動団体のデータベース整備**。より有機的な域内の組織間連携を促進、**栃尾地区活性化を加速**。**観光開発プロジェクト**推進

権 五景  
ゼミナール

# 十分杯を世界に知らせよう！



【参加学生】 5名(4年生1名、3年生4名)

4年生 阿部滉平

3年生 青柳玲央 榎本一斗 長部康平 高橋帝那

【アドバイザー】

株式会社長谷川陶器 代表取締役 長谷川真 氏

魚沼市役所防災安全課 主事 中澤 司 氏

## 取り組み概要

長岡に伝わる戒めの盃「十分杯」を用いて、長岡をより活性化することを目指して活動しています。十分杯の存在が知られてきている中、十分杯を通してより長岡をPRし、世界に繋げていくことを目指して、活動を行っています。

## 活動風景

今年度は、十分杯をPRする動画の制作を中心に活動を行いました。長岡大学が所蔵する十分杯を撮影し、編集を行いました。ゼミ生全員が動画編集ソフトの使い方を身につけ、制作した動画を順次YouTubeに公開しています。



他にも、今年度からは、権ゼミナールの先輩方が行っていた、升十分杯の制作を再開しました。  
また、三度目となるHakkotrip2021にも参加し、十分杯の広報活動を行いました。



喬 雪氷  
ゼミナール

## きもの文化村構想の試み ～十日町地域における新たな可能性～



【参加学生】 11名(4年生5名、3年生6名)

4年生 金子大輝 川上智輝 服部源太 吉澤凌哉 和田愛理沙  
3年生 江口凜奈 小野加奈子 小野島陸 佐藤潤太  
長谷川継介 村山翔

【アドバイザー】

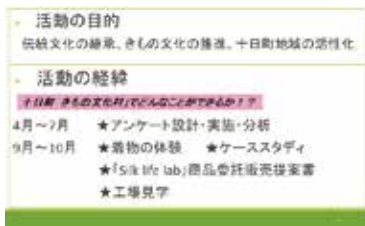
株式会社きものブレイン 代表取締役社長 岡元松男 氏  
富士工営株式会社 代表取締役会長 池津 忠 氏

### ～取り組みの概要～

今年度、私たちは株式会社きものブレインが構想している「十日町きもの文化村」プロジェクトの実現可能性について、模索してみました。十日町は日本国内屈指の着物産地であり、その伝統のきもの産業をどのように活性化するのは課題でした。一年間、アンケート調査、着物の体験、ケーススタディ(たくみの里)、絹生活研究所関連商品の委託販売提案書及びきものブレイン夢ファクトリー工場見学などの活動を実施してきました。来年度も継続的に着物文化の振興、日本文化の継承及び地域活性化という3つのキーワードを念頭にゼミ活動を展開していきます。



### 活動の目的と経緯



今年度の活動



着物と造り帯の体験



アドバイザーへ活動報告



中間レビューの様子



男性浴衣の体験



委託販売提案書

栗井英大  
ゼミナール

# オープンファクトリーで長岡を活性化！



【参加学生】 13名(3年生13名)

3年生 石井優人、石山歩、梅澤駆、熊谷海斗、小海りこ  
小林拓海、齋藤綾太、笹川彩花、高野可南太  
田沢圭祐、永井滉大、長谷川響、馬場竜一那

【アドバイザー】

株式会社アルモ 代表取締役社長 柴木樹氏  
長岡市商工部産業支援課 工業振興担当課長補佐 酒井億氏

## 長岡市の製造業へヒアリング

長岡市産業展示室(ハイブ長岡)  
株式会社 トクサイ  
株式会社 長岡歯車製作所  
マコー 株式会社 を訪問  
↓  
長岡市の製造業を学ぶため、市内の企業へヒアリングを行い、長岡市の製造業の知識を増やした。

## 燕三条地域の製造業へヒアリング

株式会社 諏訪田製作所  
株式会社 玉川堂  
マルナオ 株式会社 を訪問  
↓  
燕三条地域でオープンファクトリーを行っている企業へヒアリングを行い、どのようにオープンファクトリーを実施しているかを見学した。

## 株式会社トクサイと連携し、小学生向けに工場見学を計画・実施

### 技術力 PR ポスター



株式会社トクサイの工場内の風景、製品の凄さを伝えようと考えたポスターを作成

### 工場見学見どころマップ



工場内のマップを参考に簡略化し、見どころをまとめたマップを作成

### トクサイ塾

～ものづくり・金属・加工方法～



株式会社トクサイに関するクイズ企画

### 釣りゲーム



株式会社トクサイの伸線加工を施したワイヤーを使用した釣りゲームを企画

小学生に工場見学を楽しんでもらうことができ大成功！

## 目標：長岡市でオープンファクトリーの開催を！

### 工場見学とオープンファクトリーの違い

工場見学…対象、内容が子供向けに小規模  
オープンファクトリー…対象、内容が一般向けに大規模

### 開催に向けての課題

複数の企業様で工場見学を計画する必要がある。  
参加者が多い場合の対応の検討  
子供と一般の方が楽しめる内容の検討

広田秀樹  
ゼミナール

## グラスルーツグローバル化ゼミナール —草の根・地域からの人類一体化の推進—



【参加学生】 21名(4年生12名、3年生9名)

4年生 尾木和磨、王懿倫、佐野広樹、鈴木清和  
武石大夢、中野琉星、丸山壮史、皆川春輝  
Tran Phuong Thao、张贝琪、李思萌、華夏  
3年生 于有為、夏鏡顔、黄舟、张娜、张苗苗  
于涵、郭浩、侯建业、許書豪

【アドバイザー】

Green Philosophy 代表 大出恭子 氏  
フェアトレードショップら・なぶう オーナー 若井由佳子 氏

### 本年度の活動テーマ:長岡で体験する「世界」



★世界から長岡・地域にきてくださった大切な方と交流<地域国際交流活動>  
★地域の世界を実感する場所へ訪問<地域国際発見活動>

-ウズベキスタン・ムミナ女史-

-アメリカ・バーゲット氏-

-ベトナム・エン女史-



<地域国際交流活動・地域国際発見活動>を契機にした「世界的視野拡大への集中学習」  
「食文化を通じた世界平和」の資料の作成



「世界的視野拡大関連知識」の地域への展開<国際理解推進活動>

-地域リーダーの方との国際理解の学習会-

-児童養護施設での国際理解推進活動-



高島幸成  
ゼミナール

## 小学生のプログラミング教育を通じた地域活性化活動



【参加学生】 12名(3年生12名)

3年生 五十嵐麗藍 岡田尚輝 小川優作 清水優太郎  
高橋侑希 土田侑真 中村恵理 中村元哉  
蕪澤晴菜 松下竜大 若井奈津 渡部さくら

【アドバイザー】

長岡市 教育委員会 学校教育課 企画推進係 伊藤裕希 氏

### 1. はじめに

地域の平均所得向上を最終的な目的として、その実現手段として長岡の子供たちが情報技術者を目指すきっかけづくりをすることが本活動の目標である。令和3年度は、情報収集を目的とした長岡市内の小学校へのアンケート、および教室イベントのノウハウ蓄積のためのプログラミング教室の開催を目指し活動を行った。

そこで長岡市内の小学校教員を対象にしたアンケートを行うアンケートチーム、教室の参加者の募集や教室の管理を行う運営チーム、授業内容を策定し、授業を行う教材作成チームの3チームで役割を分担し活動した。

### 2. アンケートチーム

長岡市内公立小学校56校を対象に、アンケートを実施し、21校から回答があった。その結果、授業で使用するプログラミング言語はscratchが65%であった。これはプログラミング教室で使用する言語を決定する際に参考にした。また、回答者の小学校教員の60%以上が授業の実施になんらかの困難を感じていることがわかった。感じている困難について図1に示す。他に教材や授業の工夫などの多くの情報を得ることができた。これらのアンケート結果は教育委員会や各小学校に報告し、情報共有を図った。



図1. プログラミング授業中に困っていること

### 3. 運営チーム

運営チームは参加者の募集、教室の準備や運営が主な活動であった。プログラミング教室は小学5,6年生を対象に募集し、11月6日に保護者を含め17名参加の教室を開催できた。教室の開催にあたり、会場案内やコロナウィルス対策に気を配り、一人で参加した児童を保護者へ確実に引き渡す等の円滑な運営を心掛けた。



図2. 実際のプログラミング教室の風景

### 4. 教材作成チーム

教材作成チームは教材研究、教材の作成、授業の実施が主な活動であった。教材研究では書籍やWeb、四郎丸小学校で実施されたプログラミング教室の見学を行った。見学の中で、想定外の対応を考える、座学と実技の時間にメリハリをつける、資料の文字を少なくイラストを使うことを学んだ。終了時にアンケートをした結果、小学生・保護者ともに満足度が高く、次回も参加したいという結果が多かった為、意義のある結果となった。



図3. テキスト(左)とプログラム(右)

### 5. 今年度の成果と来年度の目標

今年度は、小学校教員に対するアンケートとプログラミング教室を実施することができた。アンケート結果ではプログラミング教育必修化の現状について情報を収集し、教育委員会や小学校と情報共有を行うことができた。また、プログラミング教室のノウハウを蓄積し、教室開催について実施可能であることを確認できた。以上のことから、意義のある成果を出せたと考えられる。これらを来年度の活動に繋がられるようにチーム内で情報共有を行なっていきたい。

来年度は「アンケートを継続し、収集する情報の精度を向上させ、長岡市との情報の共有化促進を図る」、「教室の内容を参加者のニーズに沿った内容にし、3回以上の開催を行う」の2点を課題としたい。

武本隆行  
ゼミナール

## 主体性を礎にした、ネットに頼らない 情報の収集と課題の探索



【参加学生】 12名(3年生12名)

3年生 池山宥斗、石田優斗、杵淵恭佑、齋藤涼馬  
佐藤健、土居稜宗、外山真衣、二國楓加  
野村真子、早津マリア蓮、諸橋悠真、渡辺航平

【アドバイザー】

FM ながおか長岡携帯電話システム株式会社 常務取締役放送局長  
佐野護 氏

### —骨太の3方針—

方針1 自分たちで「テーマ」と「課題」を

方針2 自分たちの「足」と「目」で情報を

方針3 KPIの設定による「ゴール」の明確化

3名1チームとなって各曜日にわかれ、  
「FM ながおか」のラジオ番組(15分)を〈企画・構成・取材・収録・編集〉から制作

#### 【月曜チーム】

##### 長岡市ゆかりのアーティスト紹介

- があががあがるず
- MT.BLUE BEAR



#### 【火曜チーム】

##### 長岡ふしぎ発見!

- 新潟県内でも長岡市の赤飯の色が違うのはなぜ?
- 「スカッシュ」の公認コートがなぜ長岡市に?



#### 【水曜チーム】

##### 長岡が誇る伝統工芸の魅力発信

- 寺泊山田の曲物
- 小国和紙



#### 【木曜チーム】

##### 学生の力で長岡の空に花火を打上げよう

- 長岡花火の魅力を発信
- クラウドファンディングによる資金調達



坂井一貴  
ゼミナール

## デジタル・情報技術を活用した 地域の財・サービスの情報発信



【参加学生】 16名(4年生14名、3年生2名)

4年生 安達侑 井口太一 池浦鼓太郎 大矢大介 黒柳恵理  
齋藤翔太 白倉亮 菅原脩人 高野祐希 永井公貴  
永井拓実 永島侑汰 中村理人 宮川友之介  
3年生 佐藤大来 種部一真

【アドバイザー】

長岡商工会議所営業サービスグループ 主幹 瀧澤学 氏

### 本ゼミナールの「地域活性化」の定義と好循環への狙い

01 地元企業が販売する製品や提供するサービスに対して  
より一層 付加価値の高い財へと変化

02 企業の業績向上から労働者の賃金の増加

03 好条件の労働場所が増加し、地方からの  
人口流出に歯止めをかけられる段階へと進む

#### 【地場産業】長岡花火 × 「燕三条」の刃物

- 競争力のある「燕三条」の刃物に長岡花火をデザイン
- アッパーマス層以上をターゲット
- SNS・インターネットを活用した販売促進

#### 【地場産業・農業】農業生産者×若者の情報技術

- 食ベチョクを活用しアッパーマス層等に農産品を販売
- 登録、マーケティングなどの知識・技能の提供により  
農業生産者と学生それぞれの強みを生かす取り組み

#### 【観光】キャンプを Keyword とした観光客増加

- 新型コロナウイルス感染症収束後を見据えた情報発信  
画像・動画を効果的に用いるための Instagram 活用
- SNS 運用のノウハウを地域に提供し全体の発信力強化

#### 【情報技術】各活動をインターネットで情報発信

- 「地域活性化」の取り組みを幅広く周知
- 産業界との繋がり構築のきっかけ作り
- 地域の課題の周知と共有



鯉江康正  
ゼミナール

## コロナ禍における「まちの駅」の 新たな交流・連携のあり方を考える



【参加学生】 16名(4年生14名、3年生2名)

4年生 赤塚倫子、木下歩美、坂元明日香、李智超  
NyamaaBaljinnyam

3年生 内山葵、尾身萌々花、小林桃香、柴野奏人  
高島元輝、長原史拓、星美紀、山井良海  
吉田和弥、OchirpurevAriunjargal

【アドバイザー】

まちの駅ネットワークみつけ 代表 久住幸靖 氏

NPO 法人市民協働ネットワーク長岡 コーディネーター 太田道子 氏

### 1. 活動目標

今年度のテーマを実現するための活動目標は以下の2つである。

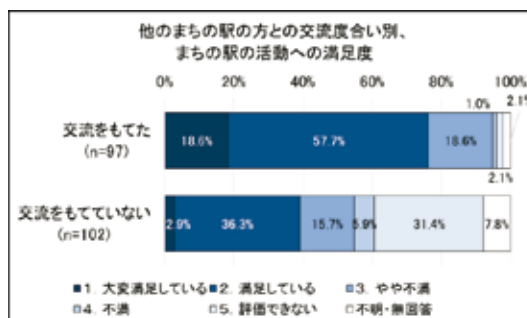
活動目標1：まちの駅で行われている活動を明らかにし、それらがまちの駅の方々にどのような影響を与えており、今後どのようにしたらより活性化するかを提案すること

活動目標2：まちの駅への貢献活動とその発信を通して、地域と来訪者を繋げる活動をする

### 2. 活動目標1の成果

「まちの駅のあり方に関するアンケート調査」を実施した結果、以下のことが明らかとなった。

- ① まちの駅に対する満足度と活動状況を伺ったことで、まちの駅としての参加実感を失わないために、交流に重点を置いて活動する必要があることが明らかとなった。
- ② Zoomでの交流会に「参加したい」と回答した方は30.2%に過ぎなかった。
- ③ 交流の重要性と遠隔での交流の難しさから、まずは対面型を重視した地域内での交流を密にする必要がある。それからネットワーク間での交流へと輪を広げていけば、Zoom等での交流も可能となり、連携機能の向上に繋がると感じた。



### 3. 活動目標2の成果

様々な活動とその発信によって、以下のような成果を上げることができた。

- ① ネーブルみつけで開催された「まちの駅&どまいち 春の物産フェア」、アオーレ長岡で開催された「はなはず展示」でボランティア活動を行った。その結果、地域の方々との交流を図ることができた。
- ② 6駅の1分間ラジオCMの制作・オンエア、アオーレ長岡とネーブルみつけでのパネル展示会を通じて、まちの駅の広報ができた。
- ③ Instagramでの活動紹介、鯉江ゼミナールのホームページの新設、見附市で開催が延期となっていた「まちの駅オンライン全国大会」への参加によって活動報告することができた。



生島義英  
ゼミナール

## 長岡市摂田屋の魅力高め、観光客を増やし、 地域活性化を図る イベントプロジェクト



【参加学生】 8名(4年生6名、3年生2名)

4年生 岩城優希、岡田大輝、小池慎一郎、小海友希、  
高橋凜、中村瑞穂

3年生 青山竜也、平山瑠伽

【アドバイザー】

長岡市 観光・交流部 観光企画課 課長補佐 小林 隆 氏  
ミライ発酵本舗株式会社 統括マネージャー 平沢政明 氏

### 【イベントプロジェクト】

#### 【摂田屋フォトコンテストの開催】

イベントプロジェクトでは、前年度の活動でSWOT分析による摂田屋が解決すべき問題点の中から、以下の5つを取り上げた。

- ① (観光・弱み) 案内所やマップ、看板が少なく、摂田屋への行き方、摂田屋の回り方がわかりづらい
- ② (歴史・弱み) 摂田屋の歴史に詳しい人がいないと、摂田屋の面白さや魅力が伝わりづらい
- ③ (観光・弱み) 摂田屋の歴史と観光地としての知名度が低い
- ④ (産業・弱み) 企業におけるSNSの活用・情報発信が少ない
- ⑤ 新型コロナウイルス感染拡大の影響により大勢の人数が集まるような大規模のイベントを行うことができない。

以上のことから今年度はイベントプロジェクトと情報発信プロジェクトに分かれ活動を行った。

#### 【プロジェクトテーマ】

イベントプロジェクトのテーマは、摂田屋の知名度を上げ、摂田屋の魅力を活かしたイベントを行う。新型コロナウイルス感染拡大の影響で大人数を集めたイベントを行うことが困難な為人が集まることなく開催が可能なイベントを行う。よって、「摂田屋フォトコンテスト」開催を企画し実行した。

#### 【摂田屋フォトコンテストの結果】

今回のフォトコンテストでは、計10名の28作品の応募があった。目標は50名だったが今回のフォトコンテストでは遠く及ばない10名という結果となった。年齢は、20代～80代と幅広い世代からの応募があった。応募していただいた方々は、地元の長岡市から新潟市など県内の様々な地域からの募集があった。

コロナ禍の影響を考え、審査後の入選作品は情報発信プロジェクトが運営するInstagramでのみの発表予定であった。しかし9月の中間報告の際、平沢様の方から「SNS以外での発表はしないのか」とアドバイスを頂き、プロジェクトメンバーと話し合い、徐々に新型コロナウイルスの感染拡大が収まりつつあることから展示会を行うことを決定した。アドバイザーの平沢政明様と連絡を取り、展示の下見や展示に関する事を打ち合わせし、2021年12月1日から12月15日の15日間、優秀作品の展示会を摂田屋米蔵で開催した。あわせて11月25日情報発信プロジェクトのInstagramで情報発信した。

#### 【結論】

作業をする時間は十分に取ることができたが、なかなか行動に移すことができなかった。より良いフォトコンテストを開催しようとする意識が空回りし、プロジェクト内で齟齬が生じてしまったことが今回の応募数につながってしまったのではないかと考える。しかし、フォトコンテストについてアドバイスをくださる方の助言を大切に、次に活かしていきたい。また失敗も多々あったが収穫もあった。今回のイベント開催で得た最大のメリットとしては、学生の力でこのようなイベントを開催することができたことを経験することができたことである。





生島義英  
ゼミナール

## 長岡市摂田屋の魅力を高め、観光客を増やし、地域活性化を図る 情報発信プロジェクト



【参加学生】 9名(4年生7名、3年生2名)  
4年生 大港樹、岡本猛、河田海、長橋伊吹、  
樋口知恵、吉澤瞳、渡邊衣舞希  
3年生 佐藤将貴、高橋那優

【アドバイザー】  
長岡市 観光・交流部 観光企画課 課長補佐 小林 隆 氏  
ミライ発酵本舗株式会社 統括マネージャー 平沢政明 氏

### 【WEB マップ】

#### 町歩き WEB マップ『歩こう摂田屋』

摂田屋の「マップ・案内所が少ない」という課題点を解決するため制作した。

マップでは摂田屋にあるお店や観光スポットの内容、イベントの紹介等を行っている。摂田屋を訪れた人に手軽に使用してもらうにWEB媒体での提供を行った。

WEBマップは摂田屋で10月30日に行われたイベント「HAKKOTRIP」で公開した。公開初日には136人もの人が閲覧してくれ、そのあとも引き続き利用してくれる人がいる。

来年度の活動ではWEBの認知度上昇に力を入れて活動していく予定だ。

今年度から、摂田屋の醸蔵の施設や商品の紹介に焦点を当てて紹介をした。

チーム内で取材、編集、投稿を分担し合い、協力して行うことができた。

月に2回の投稿を行い、イベントの告知や摂田屋ライトアップの様子を届けることができ、順調に投稿することができた。

今後は、ゼミ生目線での投稿をメインに投稿する予定だ。例えば、飲食店の食レポや町歩き動画、摂田屋の魅力スポット紹介等、新しい面で紹介を予定している。投稿を見た人が行ってみたい、食べてみたいと思えるような投稿記事にできるよう編集技術も高めながら活動を続けていきたいと考える。





## 長岡大学開学 20 周年記念事業「校旗贈呈式」および 「令和3年度学生による地域活性化プログラム成果発表会」

### < 次 第 >

日 時：令和3年12月4日（土）12:45～18:00

会 場：ホテルニューオータニ長岡「NCホール」

プログラム (司会 長岡大学准教授 村越 真紀)

12:45 長岡大学開学 20 周年記念事業「校旗贈呈式」

開 式

同窓会長挨拶 長岡悠久会 会長 覚張 良太 氏

校旗贈呈

閉 式

13:00 「学生による地域活性化プログラム成果発表会」

13:05 開会挨拶 長岡大学 学長 村山 光博

13:10 全体説明

13:15 発 表 ※各取組の発表は 13 分間、質疑応答は 5 分間。

13:15～ 前 半			
13:15	1	栃尾地区活性化に向けたにぎわい創出事業	石川英樹ゼミ(1)
13:35	2	栃尾地区活性化に向けた P R 事業	石川英樹ゼミ(2)
13:55	3	十分杯を世界に知らせよう！	権五景ゼミ
14:15	4	きもの文化村構想の試み～十日町地域における新たな可能性～	斎雪水ゼミ
14:35	5	オープンファクトリーで長岡を活性化！	栗井英大ゼミ
14:55	6	グラスルーツグローバリゼーション —草の根・地域からの人類一体化の推進—	広田秀樹ゼミ
15:15～ 休 憩			
15:30～ 後 半			
15:30	7	小学生のプログラミング教育を通じた地域活性化活動	高島幸成ゼミ
15:50	8	主体性を礎にした、ネットに頼らない情報の収集と課題の探索	武本隆行ゼミ
16:10	9	デジタル・情報技術を活用した地域の財・サービスの情報発信	坂井一貴ゼミ
16:30	10	コロナ禍における「まちの駅」の新たな交流・連携のあり方を考える	磯江康正ゼミ
16:50	11	長岡市栢田屋の魅力を高め、観光客を増やし、地域活性化を図る イベントプロジェクト	生島義英ゼミ(1)
17:10	12	長岡市栢田屋の魅力を高め、観光客を増やし、地域活性化を図る 情報発信プロジェクト	生島義英ゼミ(2)

17:30 総 評 株式会社フーゲツ 代表取締役社長 千葉 智 氏  
長岡市地方創生推進部政策企画課 課長 新沢 達史 氏

17:50 閉 会

17:50 写真撮影 ゼミ学生、アドバイザー、担当教員（発表順に撮影）

参考資料2 「社会人基礎力診断シート（学生用）」

※前期、後期ともオンラインで回答

社会人基礎力診断シート

学籍番号： \_\_\_\_\_ 氏名： \_\_\_\_\_

\*該当するレベルを囲み、得点と総得点を計算して下さい

社会人基礎力 3大能力	社会人基礎力 12能力要素	レベル1 <1点>	レベル2 <2点>	レベル3 <3点>	レベル4 <4点>	レベル5 <5点>	得点
アクション (前に踏み出す 力)	主体性 (物事に進んで取り組む 力)	他人に何度も指示 されてから物事に 取り組む	他人に指示された 物事に対しては取 り組むが、すべき ことを主体的にみ つけようとする	他人に指示される こともあるが、す べきことを主体的 にみつけようとする	他人の指示を待つ のではなく、主体 的にすべきことを みつけられる	自分の状況を判断 したうえですべき ことをみつけ、率先 してやりとげられる	
	働きかけ力 (他人に働きかけ巻き 込む力)	困っていても他人 に協力を求められ ない	親しい人には協力を 求められるが、親 しくない人には声 をかけられない	親しい人にも親し くない人にも協力を 求めて声をかけら れる	協力して目標を達 成するため周囲の 人にその必要性を 説明できる	協力して目標を達 成するため周囲の 人にその必要性を 説明し、共に行動 できる	
	実行力 (目的を設定し確実に 行動する力)	目的・目標を決め ずに行動することが 多い	目的・目標は設定 するが失敗を恐れ て目標を低くしたり 他人に任せたり することがある	自分の能力に見合 う目的・目標を設 定できる	目的・目標達成の ために何をすべき かを考え行動でき る(やるべきこと を書き出す、やる べきことの順序づ け等)	目的・目標に対し具 体的なステップを 念頭に置いて行動 できる(どれくらい 時間・費用がかかる か、失敗したとき のリカバリー等)	
チームワーク (チームで働く 力)	発信力 (自分の意見をわかり やすく伝える力)	自分の意見を他人 に伝えたり理解し てもらおうと思え ない	自分の意見を他人 に伝えたり理解し てもらいたいと思 うが、行動に移せ ない	自分の意見を他人 に伝えたり理解し てもらおうための行 動がとれる	自分の意見をわか りやすく伝え、他 人の理解や協力を 得ることができる	言葉遣い、話の構 成、資料を工夫し自 分の意見をわかり やすく伝え他人の 理解や協力を得る ことができる	
	傾聴力 (相手の意見を丁寧に 聴く力)	相手の話は聞か ず、意識して丁寧 に聴いているわけ ではない	相手の話を聴くた めの基本態度(姿 勢、目線、相づち) がとれる	相手の表情や態度 を読み取りなが ら、話を聴くこと ができる	相手の話を理解し ようとする態度 (質問・確認)が とれる	相手の話を理解し ようとする態度(質 問・確認)がとれ、 一緒に考え意見等 を言える	
	柔軟性 (意見の違いや立場 の違いを理解する力)	自分の意見に反対 されたり変更され たりすると抵抗す る	反対意見でも相手 のほうが優れている と思う場合は、自 分の考えに固執し ない	反対意見でも相手 のほうが優れている と思う場合は、そ れを理解しようと する	周囲の優れた意見 を取り入れ、自分 の考えや行動を変 えられる	周囲の多様な意見 を積極的に取り入 れ、一人で考える よりも創造的な成 果を出せる	
	状況把握力 (自分と周囲の人々や 物事との関係性を理 解する力)	自分は何をすれば 周りに貢献できる かがわからない	自分の役割は理解 しているが、周りに 気を配れずひとり よがりになること がある	グループの中で自 分がどんな役割を すればよいかを理 解できる	グループの中で自 分がどんな役割を すればよいかを理 解し、行動できる	自分の役割を認識 するとともに周囲 の状況(人間関係、 忙しさ等)に気を配 り、物事を良い方 向に進められる	
	規律性 (社会のルールや人 との約束を守る力)	無断欠席・遅刻が 多く、締め切りも 守れない	相手に迷惑をかけ ない最低限の礼儀 ・ルールを理解し ているが、守れ ないことがある	相手に迷惑をかけ ない礼儀・ルール を守れる	相手に迷惑をかけ ない礼儀・ルール を守り、他人を不 快にさせない行動 ができる	約束時間や提出物 の期限をきちんと 守れ、状況に応じ て発言や行動を律 することができる	
	ストレスコントロール (ストレスの発生源に 対応する力)	失敗や困難に直面 すると悩んだりパ ニックになる	失敗や困難に直面 すると一人で思い 悩む	ストレスを感じる のは一過性のこと と考え重く受け止 めない	ストレスの原因を みつけ自力でまた は他人の力を借り て取り除くことが できる	失敗や困難に直面 しても、ストレスを 力に変えて解決策 を模索できる	
シンキング (考え抜く力)	課題発見力 (現状を分析し目的 や課題を明らかにす る力)	他人から与えられ る目的・課題をう のみにする	やっていることの 目的・課題は何か を意識することが ある	他人の意見・助言 を得て、やっている ことの目的・課 題を発見できる	自分の力で、やっ ていることの目 的・課題を発見で きる	情報収集等を通じ 現状を正しく分析 し、それをふまえて 目的・課題を明らか にできる	
	計画力 (課題の解決に向けた プロセスを明らかに し準備する力)	計画を立てずに行 動することが多い	計画を立てて行動 するが、見通しが 甘く予定通りにな らない	計画を立てて行動 する	計画を立てて行動 しつつ、適宜、計 画を見直し予定通 り物事を進められ る	手順や方法の優先 順位を決定し計画的 に物事を進め、う まくいかなかった ときの解決策も考 えられる	
	創造力 (新しい価値を生み出 す力)	新しいアイデア・ 解決方法を考えら れない	新しいアイデア・ 解決方法を考えよ うと意識すること がある	アイデア・解決方 法は出すが、独創 的ではなく前例が ある	独創的なアイデ ア・解決方法を創 り出そうとする	前例にとらわれず 従来の常識や発想 を転換し、独創的 なアイデア・解決 方法を創り出せる	

↓  
総得点

### 社会人基礎力診断シート（教員用）

ゼミ担当		学籍番号		学生名	
------	--	------	--	-----	--

学生による地域活性化プログラムの取組において、この学生の各項目の力が年度初めと比較して伸びたかについて評価してください。該当する番号を右の評価欄にご記入ください。

	社会人基礎力の項目	評価
ア ク シ ョ ン 力	<b>【主体性】</b> 進んで取り組む力が上昇したと思いますか。 1. 上昇した      2. ほとんど変化がなかった      3. 低下した	
	<b>【働きかけ力】</b> 取組の実施にあたって他の人に働きかける力が上昇したと思いますか。 1. 上昇した      2. ほとんど変化がなかった      3. 低下した	
	<b>【実行力】</b> 取組を確実に実行できる力が上昇したと思いますか。 1. 上昇した      2. ほとんど変化がなかった      3. 低下した	
シ ン キ ン グ 力	<b>【課題発見力】</b> 課題を明らかにする力が上昇したと思いますか。 1. 上昇した      2. ほとんど変化がなかった      3. 低下した	
	<b>【計画力】</b> 課題解決の準備をする力が上昇したと思いますか。 1. 上昇した      2. ほとんど変化がなかった      3. 低下した	
	<b>【創造力】</b> 新しいアイデアを出す力が上昇したと思いますか。 1. 上昇した      2. ほとんど変化がなかった      3. 低下した	
チ ー ム ワ ー ク 力	<b>【発信力】</b> 自分の意見を相手に伝える力が上昇したと思いますか。 1. 上昇した      2. ほとんど変化がなかった      3. 低下した	
	<b>【傾聴力】</b> 相手の意見を聞く力が上昇したと思いますか。 1. 上昇した      2. ほとんど変化がなかった      3. 低下した	
	<b>【柔軟性】</b> 意見の違いなどを理解する力が上昇したと思いますか。 1. 上昇した      2. ほとんど変化がなかった      3. 低下した	
	<b>【情況判断力】</b> 周囲の人や物事との関係を良く理解する力が上昇したと思いますか。 1. 上昇した      2. ほとんど変化がなかった      3. 低下した	
	<b>【規律性】</b> ルールや約束を守る力が上昇したと思いますか。 1. 上昇した      2. ほとんど変化がなかった      3. 低下した	
	<b>【ストレスコントロール力】</b> ストレスをうまく解消する力が上昇したと思いますか。 1. 上昇した      2. ほとんど変化がなかった      3. 低下した	

## 令和3年度学生による地域活性化プログラム成果発表会

### 【意見シート】

令和3年12月4日（土）

本日の発表についてお聞かせください。この意見シートは各取組の優劣を判断するものではありませんので、忌憚のないご意見をお願いいたします。該当するものに○をつけてご意見をご記入ください。ご協力よろしくお願い申し上げます。

#### 〔1〕あなた様の所属を教えてください

- |                     |          |        |          |          |
|---------------------|----------|--------|----------|----------|
| 1. アドバイザー           | 2. 一般参加者 | 3. 保護者 | 4. 本学の学生 | 5. 本学教職員 |
| 6. 本学以外の学生(大学生・高校生) |          |        |          |          |

#### 〔2〕各ゼミの発表内容についてお聞きします（発表順）

##### ① 石川英樹ゼミ(1)：栃尾地区活性化に向けたにぎわい創出事業

Q1 取組テーマ（タイトル）と内容は合致していましたか。

1. 合致していた 2. あまり合致していなかった 3. 合致していなかった

Q2 この取組は地域活性化に役立つと思いますか。

1. 役立つ 2. どちらともいえない 3. 役立たない

Q3 学生の取組として評価できると思いますか。

1. 高く評価できる 2. 評価できる  
3. やや物足りない 4. あまり評価できない

Q4 発表の仕方についてどう感じましたか。

1. 非常に優れていた 2. 優れていた 3. やや問題あり 4. 問題あり

Q5 取組の内容や発表に対するご意見をご自由にお書きください。

令和3年度「学生による地域活性化プログラム」に関するアンケート調査

令和4年1月  
長岡大学 教務委員会  
地域活性化プログラム運営部会

このアンケートは、学生の皆さんから令和3年度「学生による地域活性化プログラム」について貴重なご意見を伺い、これをもとに次年度以降の活動に向けた改善を目的として実施します。なお、アンケートの集計結果は公表いたします。また、アンケートの回答および結果は以下の意に任意し取り扱われるため、安心して回答してください。

- ・アンケートの回答が、成績に影響することはありません。また、この調査の目的以外で使用されることはありません。
- ・集計結果の公表にあたって個人が特定されることはありません。
- ・「学校法人中越学園個人情報保護に関する規程」に従って、厳正に管理します。

※回答者のゼミナール名、学籍番号、氏名をご記入ください。

ゼミナール名	
学籍番号	
氏 名	

問1 所属ゼミナールの活動（地域活性化プログラム取組）を行った後、地域への理解が高まりましたか。（1つに○）

1 高まった      2 どちらともいえない      3 高まっていない

問1で「3 高まっていない」と回答した方は、なぜそう思うのか具体的に記入ください。

問2 地域活性化プログラムの取り組みは、地域の活性化に役立ったと思いますか。（1つに○）

1 役立った      2 どちらともいえない      3 役立っていない

問2で「3 役立っていない」と回答した方は、なぜそう思うのか具体的に記入ください。

問3 所属ゼミナールの活動（地域活性化プログラム取組）を行う前と行った後で、あなたの自身の社会人基礎力（前に積み出す力、考え抜く力、チームで働く力）は上昇したと思えますか。（1つに○）

1 上昇した      2 どちらともいえない      3 上昇していない

問3で「3 上昇していない」と回答した方は、なぜそう思うのか具体的に記入してください。

問4 所属ゼミナールの活動（地域活性化プログラム取組）を行う前と行った後で、あなた以外の他のメンバーと総合的に見て社会人基礎力（前に積み出す力、考え抜く力、チームで働く力）は上昇したと思えますか。（1つに○）

1 ほぼ全員が上昇した      2 上昇した学生と上昇していない学生が半々位      3 上昇していない学生が多い

問4で「3 上昇していない学生が多い」と回答した方は、なぜそう思うのか具体的に記入してください。

問5 地域活性化プログラム全体において、改善が必要と思われることなど、気づいた点がありましたら、ご自由に記入ください。

質問は以上です。ご協力感謝いたします。